

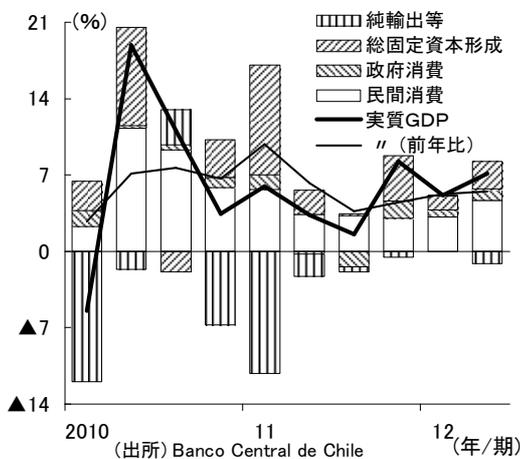


## 成長加速するチリ経済

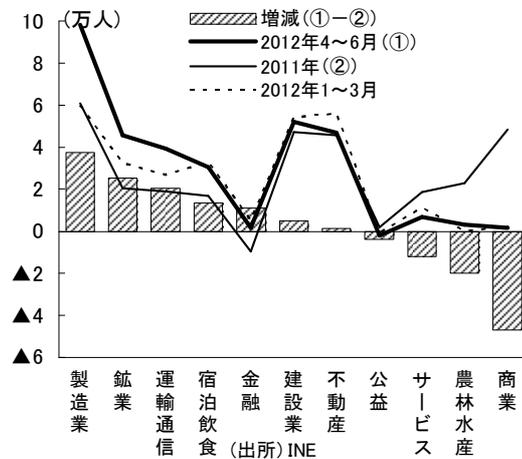
～ 進む構造転換 ～

- (1) 4～6月期、チリ経済が成長加速（図表1）。前期の1～3月期と対比すると、実質成長率は前年比で5.3%から5.5%、季調済前期比年率で5.1%から7.1%へ。同国経済はリーマン・ショックで2009年▲1.0%のマイナス成長の後、10年1～3月期は大地震に見舞われ季調済前期比年率▲5.5%の大幅マイナス。翌4～6月期は反動増で同18.9%成長に転じたものの、その後11年7～9月期までほぼ期を追って成長鈍化。しかし昨年10～12月期以降、成長加速の兆し。
- (2) 寄与度をみると、第一の牽引役は民間消費。景気好転に伴う所得雇用環境の改善と消費者マインドの改善が貢献。失業率は一段と低下し、本年6月には季調済で6.5%と2009年の2桁から大幅改善。就業構造では自営業者が減り雇用者が増加。雇用者数の動向を業種別に分けると製造業が大幅増（図表2）。銅鉱採掘をはじめ、これまで同国経済を牽引してきた鉱業を上回る増加数。2010年と本年4～6月期の雇用者数を対比すると鉱業の+4.6万人増に対して製造業は+9.8万人増。
- (3) 製造業の躍進は輸出増が原動力。輸出数量をみると、大地震が起きた10年1～3月期をボトムに製造製品は一貫してハイペースで増加し11年7～9月期にリーマン・ショック直前のピークを凌駕（図表3）。本年4～6月期は再び増勢加速。それに対して鉱業品は10年1～3月期の大地震による深刻な落ち込みから次第に回復へ向かっているものの、増勢は緩慢。付加価値の低い鉱石輸出から、より付加価値の高い製品、半製品輸出への転換が進行。
- (4) 工業生産をみると、このところの増産はまず金属製品、さらに印刷を除くと鉱物製品が続き、鉱業関連が盛り上がり（図表4）。近年の産業雇用構造の変化は国内資本に加え、外資の積極的参入がトリガー。本年4～6月の対内直接投資は79億ドルと従来の30億ドル前後から大幅増。消費と投資が主導し、今後も実質5%前後の高めの成長持続の公算大。

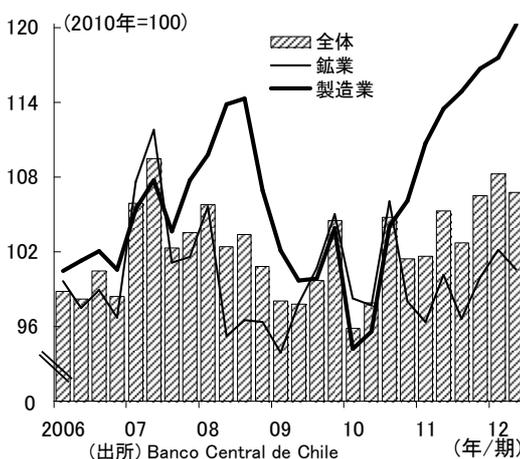
（図表1）チリの実質成長率（季調済前期比年率）



（図表2）業種別雇用者数（2010年差、季調済）



（図表3）輸出数量（季調済）



（図表4）業種別工業生産（季調済）

